

## 定延利之

現代日本語の母語話者 100 名前後を対象としたアンケート調査の結果をもとに、筆者が悩んできた、極めて身辺的な現象例 1~9 を紹介し、言語学をより豊かにする方途について論じたい。

1. 「このあたりに飲料の販売機ありませんか？」と問われて「えーと」と言い淀む場合、その直後には、相手が望む返答（例「そこを右に曲がったところにあります」）も、望まない返答（例「このあたりは無いと思いますけど」や「ちょっとわかりません」）も現れ得る。だが、「さー」と言い淀む場合、直後には、相手が望まない返答しか現れない。「さー」は、考えても相手が望まない返答しか出せない場合専用の、考え中のことばである。
2. ドライブに行こうとしたものの、車がなぜか動かず、3人が車内で原因を探っている。やがて1人が原因を探り当てた（シフトレバーがニュートラルになったまま）。この時、「あ、ニュートラルだ」という発話は、原因を探り当てれば誰でもできる。だが、「あ、ニュートラルだった」という発話は基本的に、運転座席に座っている者にしかできない。
3. 明らかな晴天のもとで「いい天気ですね」と言う隣人の挨拶は、キャッチセールスの挨拶と同じものなのか。
4. 「あの人って、話長くない？」と言われて「だ」と返すのは不自然だが、「だね」「だな」と返すのは自然。
5. 「まじめだよお」「もう待てないよお」（いずれも「よ」の音調は高く「お」の音調は低い）は〈子供〉っぽい発話。「まじめなよお,」「松本さんよお」（同上）は〈下品な男〉の発話。
6. 森ではぐれた松本氏を探す呼びかけ発話「松本一」は、末尾の音調が下降しない。下降し得るのは、いま、ここに現実にいる松本氏に呼びかける場合のみ。
7. 現在の自己の信念表現「私はカエルは両生類だと思います」は、他者の信念表現「彼は～思っています」とは別形式。しかし過去の場合、自己の信念表現「中学生になるまで私はカエルは爬虫類だと思いました」は不自然で、他者と同様の形式「～思っていました」が自然。
8. 「5時にこの店で会おうって、彼と約束したんです」は、小説や劇でも日常会話でも自然。だが、「5時にこの店で会おう。そう彼と約束したんです」は、小説や劇では自然だが、日常会話では不自然。
9. 口をとがらせる発話には、子供っぽい不満の発話とは別に、大人の恐縮発話もある。